

特徴的な「外護列石」で石積みがなされている後期の古墳

### 大谷・定古墳群



指定区分	国指定史跡
読みかた	おおや・さだこふんぐん
所在地	真庭市上中津井
指定年月日	平成20年3月28日
解説	7～8世紀に築造された一辺約22mの「大谷1号墳」、約25mの「定北古墳」など6基の方墳が密集している古墳群である。指定面積は約7万平米に及ぶ。各古墳の段に「外護列石」と呼ばれる石積みが巡らされているのが特徴的である。
アクセス方法	中国自動車道北房ICから高梁方面へ約7km
公開状況	自由
設備	
備考	

## きつずページ

していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	大谷・定古墳群
よみかた	おおや・さだこふんぐん
しょざいち (所在地)	真庭市上中津井
していつひ (指定した日)	平成20年3月28日
せつめい	<p>7世紀(せいき)ごろ、次々とつくられた6つの古墳(こふん)です。この頃(ころ)になると、古墳がつくられていた時代(じだい)も終わりごろとなり、古墳の大きさも小さくなり、数も減(へ)っていきます。そして、古墳の形は、まわりに石をきれいにならべた、四角い方墳(ほうふん)がつくられるようになりました。なかでも、定北(さだきた)古墳と大谷(おおや)1号(ごう)墳の石室(せきしつ)は、石をていねいにととのえ、きれいにつみ上げられています。この「切石(きりいし)づみ」とよばれる石室は、岡山県の中でも3つしかないめずらしいものです。</p>